

ポストコロナの公共政策と慶應義塾

グループ発表「縦割り行政の問題点と提言」



2020年11月7日

縦割り行政の問題点



- 人事異動で話が引き継いでいない。
- 行政の中にいるが、コロナに携わっており、行政は縦割りで専門性が高い。一般から見ると行政サービスの窓口が分かりにくい。
- 政府がマイナンバーを奨励する理由が分からない。国民サービスとしてはどんな利点があるかが見えない。
- 川越に住んでいて、行政対応はよくなった。しかし行政は法律に基づいているが「行政は態度大きい」という感
はぬぐえない。相談している人に向き合っているかが重要ではないか。
- 人間は結果を求めているのではなく、過程を求めている。行政の対応が重要。
- 議員という立場で言うと、市民と向き合っていない。子育てなどで行政の一元化を図っているが、多くの部署では横の連携が少ない。
- 行政は縦割りだが、悪いところばかりではない。諸外国に比べればよい点もある。
- 昔のようなガチャ切りはしない。少なくとも門前払いはしていない。行政は組織の構造上縦割りになる。横断的な活動も行っている。
- 犯罪の発生率は下がっている。
- 行政の立場として、行政がなにをしているかを、皆に知ってもらう努力は必要。

課題としての問題提言



- ① 行政110番の設置。困ったときに行政に頼れる状態にはなっていない。困ったときに行政に相談する体制が必要。
- ② 窓口が見えにくい点の是正。行政とは組織、ハードかソフト面か。それが見えにくい。専門性が高く、内容が分からない場合、時間が必要。
- ③ 全体か、部分かでいえば、部分で動いている。全体の動きを可視化する。
- ④ マイナンバーで何ができるのか。ハードはあるがソフトができていない。
- ⑤ 行政の若返りやハードを使いこなすソフトの開発。

※行政は専門性により、必然的に縦割り構造になりがち。それを横断的に横ぐし（機能的連携）で繋ぐことにより、従来型の行政を活性化する。